

ハレと民俗を写す



土門拳《白太鼓踊》宮崎県西都市 1939年

あいだ

2025

1/24金 ~ 3/30日

月曜休館(祝日の場合は開館し、翌火曜休館) / 9:00~17:00(入館は16:30まで)

入館料: 一般800円 / 高校生400円 / 中学生以下無料

山形県酒田市飯森山2-13(飯森山公園内) TEL:0234-31-0028

<http://www.domonken-kinenkan.jp/>

土門拳記念館

Ken Domon Museum of photography

2025年4月、土門拳記念館の呼称が「土門拳写真美術館」に変わります。

土門拳を未来へ
写真アーカイブの試み

同時
開催



2



3

1. 土門拳《四季・冬 庄内の正月》
2. 土門拳《岩戸神楽 手力男命》1939年
3. 土門拳《狭野棒踊》1939年

「ハレとケのあいだ」



民俗を写す

「ハレ」と「ケ」—日常と非日常が交わる民俗の世界。本展では、土門拳が捉えた日本人の暮らし（ケ）と、宮崎・高千穂の神楽をはじめとする祭りや儀礼（ハレ）の作品を展示します。さらに、第2回土門拳賞を受賞した写真家/民俗学者・内藤正敏による、東北地方の民俗を撮影した作品『出羽三山と修験』を紹介しつます。信仰、祭礼、修行—そこに垣間見える人々の真摯な営みは、写真を通じて「ハレとケ」の間に広がる世界を静かに問いかけます。

企画展示室 I・II

土門拳を未来へ
— 写真アーカイブの試み —



4

日本初の写真専門美術館として設立された土門拳記念館。開館40年を超えた現在、展示用プリントに加え、「写真原板」と呼ばれる約13万5千点のフィルムやガラス乾板などを保存しています。これらは非常にデリケートな媒体であり、フィルムに含まれる酢酸成分が化学変化を起こす「ビネガーシンドローム」をはじめとする劣化が進むと、複製ができなくなる可能性があります。貴重な視覚遺産を後世に継承していくために欠かせない写真原板の長期保存と利活用は、世界的にもますます重要な課題となっているといえるでしょう。本展では、土門拳の作品を未来へ繋ぐため、当館におけるこれまでの保存活動やアーカイブ構築の試みを紹介します。また、展示機会の少ないヴィンテージ・プリントも公開します。

4. 土門拳《姉と妹》1950年 ヴィンテージ・プリントより
撮影された人物は、土門拳の長女真魚(左、10歳の頃)と三女真耶(右、6歳の頃)
長女の池田真魚は第4代土門拳記念館館長

会期中の
イベント

学芸員によるほぼ月イチギャラリートーク *いずれも14:00~14:30/要予約

2/15(土) 土門拳を未来へ —写真アーカイブの試み—

3/15(土) 民俗を写す —ハレとケのあいだ—

『宝の日』土門拳さんの記念館で吉野弘さんの詩をよむ」

2/22(土)14:00~15:00(予定) 要予約